

ねじりはちまき

5月 皐月（さつき） 立夏 小満の月となりました。
5月1日メーデー、2日八十八夜、3日憲法記念日、5日こどもの日と
立夏が同じ日です。
14日母の日、21日小満です。

二十四節気の一つで「小満」とは、この日から芒種までの期間をいいます。
立夏から数えて、15日目です。

「陽気盛んで、万物が次第に長じて天地満る」という意味だそうです。

畑では作物がすくすくと育っていますが、麦や菜種など一部の作物を除いては、まだ本格的な実りには至っていません。

つまり、大いに満ちる前の小さく満ちる頃、を指している農の暦からの時候の言葉なのですね。

北国では梅が開花する頃ですが、南国では梅雨を思わせる雨の日が増え始めています。

稲や畑の作物が大きく満ちるための、大切な天の恵みなのですね。

過ごしやすい季節とはいいながら、夜分には肌寒さも感じるこの頃です。
どうぞ、お身体を大切にしてください。

幸田 常一

☆

☆

☆

☆

☆

☆



お世話になっております。

本宮市の新築工事の現場も完了し、事務所内では図面や書類の作成などしています。また近くの現場でキッチンや作業場の改修工事をお世話になっております。

「ケンコウ」

私は毎朝、2時間程散歩を楽しんでおります。ところが、4月下旬に足元がふらつき、毎日の散歩の時間を30分以上もオーバーしてようやく自宅に戻って参りました。

理由は、足が思いのまま動かず「足踏み」状態を続けていたのです。

この日は、町内の燃えるゴミを集出す日だったのです。家の前でゴミを出しに出た家内と顔を合わせたのですが、その際、体全体が右に傾いているといわれました。そこで私は頭がおかしくなってしまったと、大きな不安を感じました。その後、朝食を摂りましたが、食欲は旺盛で何時もと変わらず美味しく頂きました。

朝食の後、家内の運転するマイカーに乗り、掛かりつけの町の医院で診察を受けましたが、専門医でないため大きな病院で診察を受けるよう指示され、紹介状を書いて頂き、K市のM病院神経内科で2日に渡り診察を受けました。

1日目は医師の問診の後、心電図を作成したり心臓のレントゲン写真の撮影をしたり、脳の断層写真の作成等が行われました。

科学的資料に基づき再度問診がありました。特に脳の断層写真の説明では、脳の一部に白く映っている部分があり（私は断層写真の知識が皆無なので、医師の説明を聞きながら納得する程度の理解しか出来ない。）、身体の異常の原因が不明のまま、翌日再診することになりました。

2日目は、心臓が通常の人と比較すると大きいといわれ、心臓のエコー検査を撮りました。

その後、エコー写真撮影後に再び問診が行われ、心配しなくてもよいといわれ大いに安心しました。

更に私は、山登りが生き甲斐のひとつになっており、昨年は立山の雄山（標高3003m）に登頂、下山の途中で足が纏れたことを申し上げた上で、昨日撮影した写真の脳の白い影はその時のものかと質問をしましたが、明確な回答はありませんでした。

生き甲斐で登山をしていると申し上げた結果、登山をしている時に足を踏み外して圧迫骨折の可能性もあるので、骨密度の検査もすることになりました。検査の結果は、若者と同じ骨密度が有ることが判明し、大いに安心しました。

このようにして、「ふら付き」の原因が不明のまま、5月末に再・再診をすることになり、血液をサラサラにする薬を1か月分頂き病院を後にしました。

私の今後の日程は、5月下旬に伊豆半島に在る「天城山（1406m）」、

日本百名山的一座で、石楠花が美しい花を咲かせているとの情報に接しており、登山することを大変楽しみにしております。

この山に登ることを申し上げたところ、暗黙の了解を頂きました。

今回の早朝散歩の際に経験した足の纏れは、歳を重ねた結果であるとの認識を深くして、「大切な仲間迷惑を掛けるな。」という天の声と受け止めなければならぬと肝に銘じております。

「大山鳴動して鼠一匹」の例えの感じもしますが、山は厳しい処であり、山の仲間を頼ることはできません。全て自己責任です。

そのことを弁えて、山の仲間にご迷惑を掛けないことを基本にして、しばらくの間山登りを楽しみたいとの思いを一層強めるこの頃であります。

k・s 記

* * * * *

今月の旬♥食材

「グリーンピース」

さやから出したてのグリーンピースは、香りや甘味も違いますね。

炊き込みご飯にしたらおいしそうです。

水の代わりにほうじ茶で炊いてもおいしいですよ。

グリーンピースには食物繊維がたっぷりと含まれています。

食物繊維が多いものは、消化に時間がかかりますので、腹持ちがいいということになります。

腸を整え、疲労回復にも効果があるそうです。

.....

↑外廻りの点検はお済みですか？

雨の季節を迎えるまえに、外廻りの点検をされてはどうでしょう。

雨がかかりやすい所で大きなヒビ割れがないか、穴など開いてはいないか、確認をしておくとういと思ひます。

また、排水口やため桝のお掃除をしておくとう安心です。

奈良と伊勢へ

昨年8月下旬、暑い時期であったが、夫婦で奈良と伊勢を巡ってきた。他の用事も兼ねていたのでゆっくりできず、急ぎ足だった。その時の印象を書きたいと思う。いささか時が経ち過ぎたのであるが（実はNo36まで原稿予定が決まっていたので）、報告したい。先ず19日（金）の夕方奈良市に着いた。ホテルにチェックインして、先ず向かったのが東大寺大仏殿。参道には参詣客が多かったが、鹿の数も多かった。高さ15mの座像・大仏（廬舎那仏）様にはさすがに圧倒された。創建は聖武天皇の時。745年に着手され、752年に完成する。天皇の発願にはどんな願いが込められていたのか。時代的背景としては、天然痘などの疫病、自然災害や天候不順による飢饉・飢餓、地震の発生など社会不安が絶えず、未だ仏の恩徳いきわたらずとの思いから、大きな仏像を造立せんとされたのではないかと推測される。当時の為政者にとって宗教と政治は一对をなすものであった。続けて、春日大社に足を運んだ。夕闇の迫るころ、かなりの距離を往復した。参道は鬱蒼とした樹林に覆われていた。最後の鳥居をくぐって境内に入ると、社殿前の参拝が叶わぬとの表示が目に入った。20年に一度の式年造替で修復中であった。そこで仮設の礼拝所で参拝した。一応朱塗りの社殿の雰囲気は感じ取ることができた。しかし残念な思いは残った。春日大社は平城京(奈良)に遷都された時、権勢誇る藤原不比等によって藤原氏の氏神を祀るために創建したとの説もあるが、社伝にはそれとは別の起源（やはり藤原氏との関係はある）が記されている。いずれにしても藤原氏との関係が深いことには変わらないようだ。参道には寄進された立派な灯籠が延々と切れ目なく並んでいた。この灯籠は年2回点燈され、その情景から「万燈」と呼ばれるそうだ。実はこの大社の背後（春日山）は昔から人の立ち入りが禁止されている原生林で、現在自然保護地区に指定されている。翌20日（土）には朝早くホテルを出発して、先ず唐招提寺に向かった。森に囲まれた境内に入ると参拝客も少なく、静かであった。鑑真由緒のところであり、ここは是非とも参拝したかったところだ。しかも静かな雰囲気の中で参拝できたのは幸いであった。金堂には仏像が三体安置されている。中央に本尊廬舎那仏座像、向かって右手には薬師如来立像、左手には千手観音立像である。網越しにしか拝すことができなかったが、参拝する者を包み込むような尊いお姿であった。金堂は創建当時の建築様式がそのまま維持されている（奈良時代の寺院金堂としては現在唯一のもの）とのこと。唐招提寺は鑑真和上によって開かれた律宗の総本山である。鑑真は日本からの要請に応え、渡日すべく挑戦すること実に10年、6回目で渡日が叶った（753年）のである。そのとき既に鑑真66歳であった。そういう方がおられたというのは日本にとって誠に有難いことだった。唐招提寺の現在みられる伽藍（金堂など）は鑑真亡き後弟子たちによって整備されていったということである。鑑真は渡日して最初は東大寺に5年間いて、戒律を重んずる受戒のための儀式を行う戒壇をつくり、逐次それを広めていったということである。宗教に戒律は不可欠と考えられていたのだろう。戒律は己を律するという意味では我々にも必要なものといえる。次に薬師寺へ。タクシーを利用して移動した。薬師寺は唐招提寺と対照的に色鮮やかである。境内も広々としている。その広々とした敷地に金堂や講堂の建物がゆったりとのびのびとしているような印象であった。金堂で薬師如来像を参拝した。ここは内部に入ることができた。眼前に柔和にして厳かな如来像を拝することができた。薬師如来は病を癒すといわれる。薬師はいわゆる薬をあらわす。薬師如来を本尊とする寺院は個人の病氣平癒を祈願して建立されるという。では、薬師寺はどうだったのか。実は天武天皇がウノサララ皇后（後の持統天皇）の病氣平癒を祈願して飛鳥に建立を始めるが、伽藍の完成を見ず、死去。その後持統天皇の時平城京遷都に伴い、奈良に移築されたという。小生は前に「天武天皇と持統天皇」の事績を訪ねて最強のカップル（妻が夫の遺志を引き継ぐ意味で）と書いたことがあるが、薬師寺はその夫婦愛の象徴である。参拝が叶って実によかった。

なお、奈良時代の建物で現存しているのは東塔のみだそうだ。その東塔は現在解体修復中で拝見することができなかった。平成32年には修復が完了する予定とのことである。次に法隆寺へ。タクシーでちょっと時間がかかった。途中金魚の産地として有名な大和郡山を通った。ちょうど金魚すくい大会の開催中でその看板が見られた。法隆寺の拝観受付を済ましたら、声を掛けてくれる人がいた。ボランティアガイドの方だ。もう一組の夫婦と一緒に案内していただいた。誠に幸運であった。ひとつひとつ丁寧に説明していただいた。時には手作りの資料を使っただけの説明もあった。法隆寺はご承知の通り聖徳太子が父・用明天皇のために創建したとされている。飛鳥時代で607年のことである。金堂・五重塔を中心とする西院伽藍は世界最古の木造建築物である。五重塔はその後の日本の歴史をじっと見詰めて、すべてを知り尽くしているような重みを感じた。金堂の銅造釈迦三尊像のお顔や建物の柱の形状から中国経由のシルクロード文化風が読み取れ、日本に伝来されたばかりのその時代の雰囲気を感じとることができた。宝物殿では、有名な玉虫厨子などかなりの数の国宝級のものを拝見することができたのは、大変有難い機会であった。午後は奈良を去り伊勢へ向かった。JRの普通列車を乗り換えながらであった。まあ、久しぶりにゆったりとした時を過ごした。伊勢に着いて、ホテルにチェックインした後、外宮参拝に向かった。歩いて行ける距離である。夕刻であったが、少数ながら他にも参拝客はいた。大木の杉木立の中、砂利敷の参道を歩く時も、拝殿で参拝し終えてその脇の柵越しに正殿を取り巻く情景を見た時も、何とも言いようのない、胸迫る荘厳な雰囲気があった。しばし夫婦でそこに留まり、立ち去りが難しい心境に浸った。でも夕闇が迫ってきたので外宮を後にした。外宮は衣食住を始め産業の守り神である「豊受大神」がご祭神である。伊勢神宮を参拝する時は外宮を先に参拝することなので、それに従った。門前町はそれらしい雰囲気があった。その一角で夕食をとり、結構忙しい一日が終わった。翌日、内宮を参拝することにしていたが、目が覚めたら雨が降っていた。朝食をとる前に参拝を済ませることにした。あいにくホテルまで来てくれるタクシーがないとのこと。そこで近鉄の宇治山田駅まで行き、朝一番のバスに乗ることにした。雨は小降りになった。バスを待っていると、幸いなことに、タクシーがきたので、それに乗り、内宮に向かった。五十鈴川の橋を超え、参道に入ると、既に大勢の参拝客がきていた。皆早いものである。鎮守の森というのがここはスケールが桁違いである。参道の途中五十鈴川で手洗いを済ませ、かなり参道を歩いた。正殿に近づくにつれ、杉の大木が林立していた。いずれもかなりの樹齢である。これまた荘厳な雰囲気である。正殿前の拝殿への階段を昇った。感謝の想いを込めて参拝した。ここでは願い事をしてならないという。ご祭神は「天照大神」である。「天照皇大神宮」とも申し上げる。拝殿脇の柵越しに拝した正殿（式年遷宮を終えて間もなく新しい）は1200年の伝統（天武天皇の時に正式に祭祀された）を持つ。その神明造のお社にただ頭の下がる思いだった。後参拝する機会があるかどうかわからないので、立ち去るのは惜しまれたが、しばしその清澄な雰囲気に浸ってから内宮を後にした。再びタクシーに乗り、ホテルに向かい、朝食をとった。それから名古屋へ。久しぶりに友人と再会し、一泊した。これが今回の一連の旅であった。心の洗濯ができてとてもよかった。

網戸の準備は大丈夫ですか？

5月の連休は暑い日が続きましたね。
これからは、網戸にして過ごすことが多くなります。
蚊も出始めましたし、今のうちに点検・修理をしておくとういかに思います。

- ・網戸に穴が開いている。
- ・網戸が破れている。
- ・網戸がたるんでいる。
- ・スムーズに開閉できない。
- ・サンが取れている。

など、何か気になることがございましたら、お気軽にご連絡下さい。

* * * * *

<会社近況>

5月に入りました。過ごしやすい季節になりましたね。
木々の新緑もきれいです。事務所の外に出て山を眺めると、とても
気持ちがよくてすっきりとします。

本宮市の新築工事の現場が完了し、次の現場の打合せや資料作成、
図面作成などしています。

今お世話になっている現場は本宮市で、キッチンや作業場の改修工
事をさせていただいております。

新入社員の武田くんは体調を崩して少しお休みしていましたが、5月
から復帰いたしました。全員揃うのはやっぱり嬉しい。

今月は社員研修があり、5/14（日）、15（月）はお休みさせて
いただきます。ご迷惑をおかけいたします。尚、16（火）は通常通り
の営業ですので、よろしくお願いいたします。

.....

平成29年 5月5日発行

<後記>

有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話、0243-44-3816

散歩するのが気持ちのよい季節に
なりました。田植えも終わり青々と
した稲が揃って植えられており、田んぼ
ってきれいなんだなと感じました。

事務員k